千家新流

挿花直枝芳

冬

2636
S

369

冬之

瀟灑臘梅吐玉霞
闇香浮動月銜意
誰知鼎内鹹羮實
正是園中傲雪萼

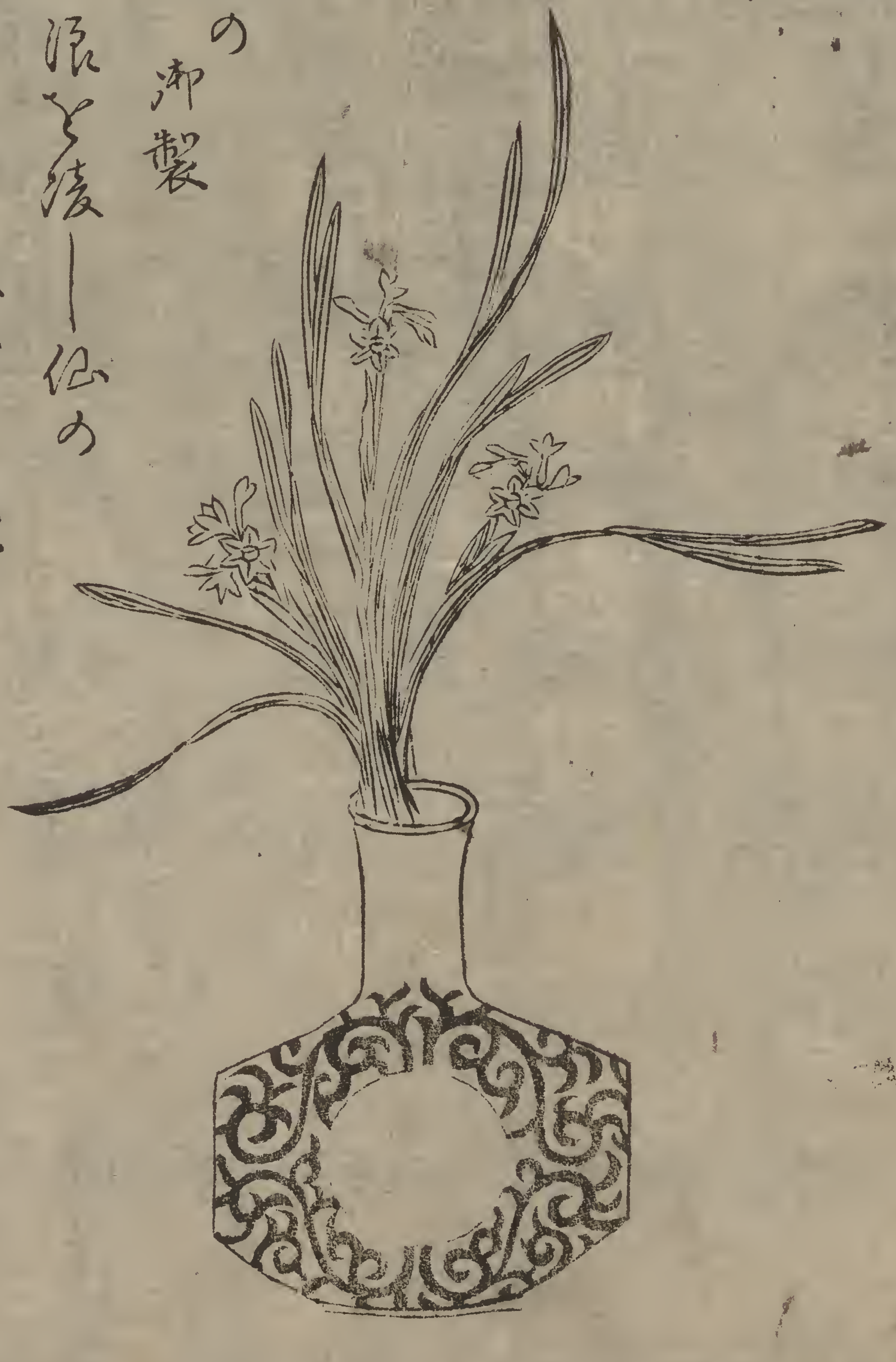
716.2
.B5

絞丞
七帖

水仙花（スイセンクハ）

和名 二ハキ 異名 凌浪仙（リヤウロウセン）ト云

後水尾院の
御製
まくれなひ浪を凌し仙の
あひ見るふや千代の初花



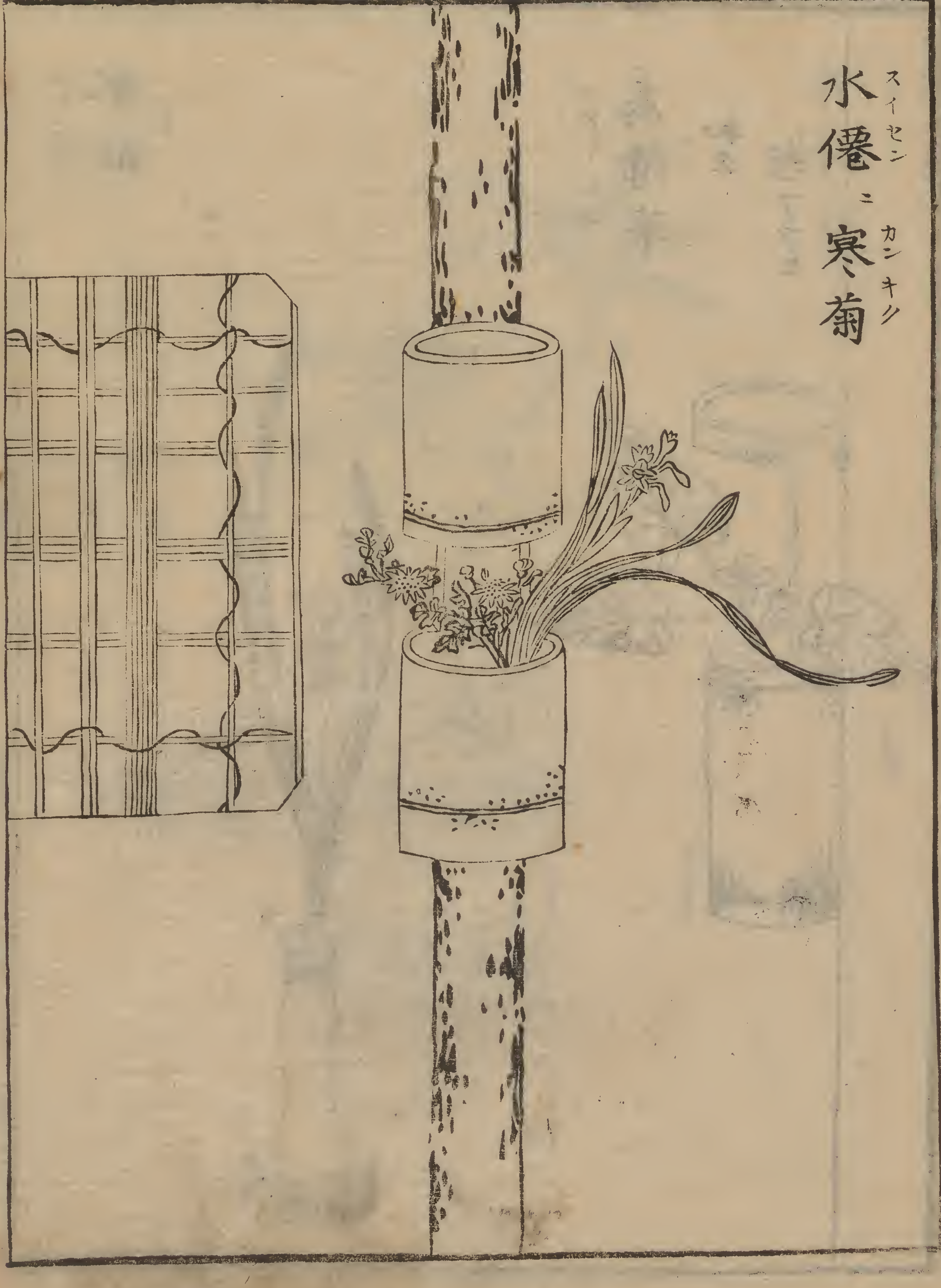
山茶花（ツハキ）

椿ノ文字非

櫻ノ帰花ニ（サクラカヘリハナ） 巻栢（イワヒバ） 一名 長生不死草（チヤウセイフシサウ）

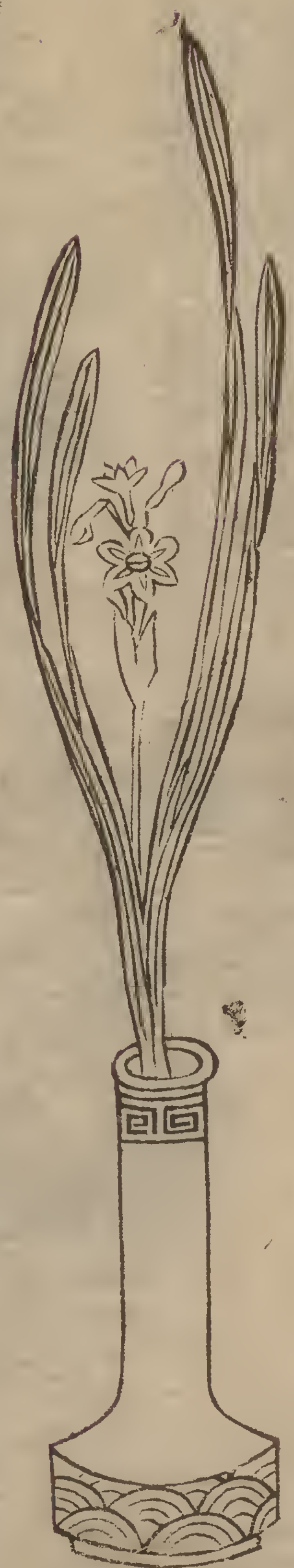
庵人承色の花は
此より組ありけるよし
作意なる所社子の
一の準縄ト

水僊ニ（スイセン） 寒菊（カンキク）



水仙（スイセン）

馬蹄莘（バテイシン）
和名 寒アフヒ



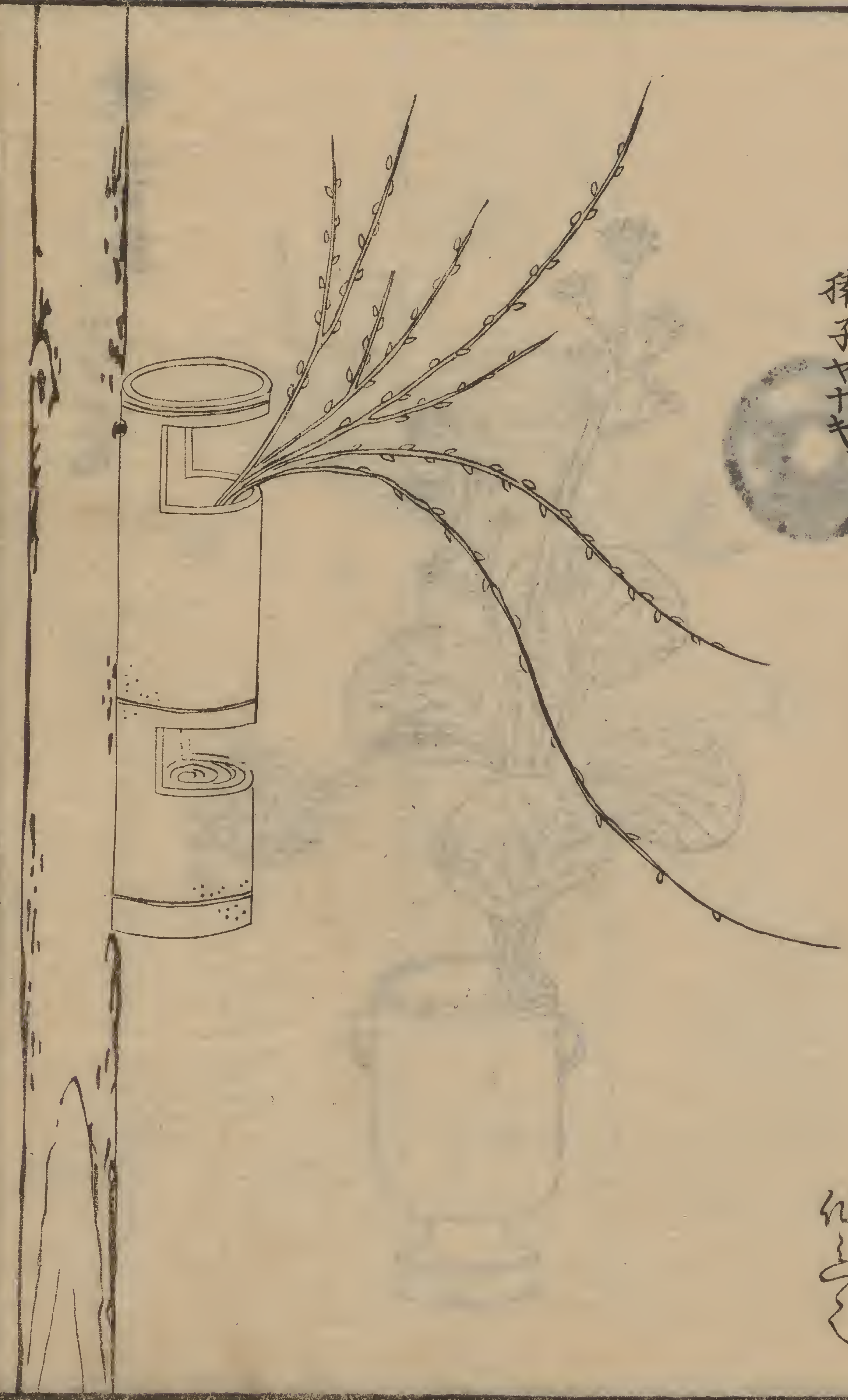
枇杷（ヒハ）花

水仙(スイセン)ニツハキ

川柳(カワヤナキ)

豕(イノコ)ヤナキ

猿子ヤナキ

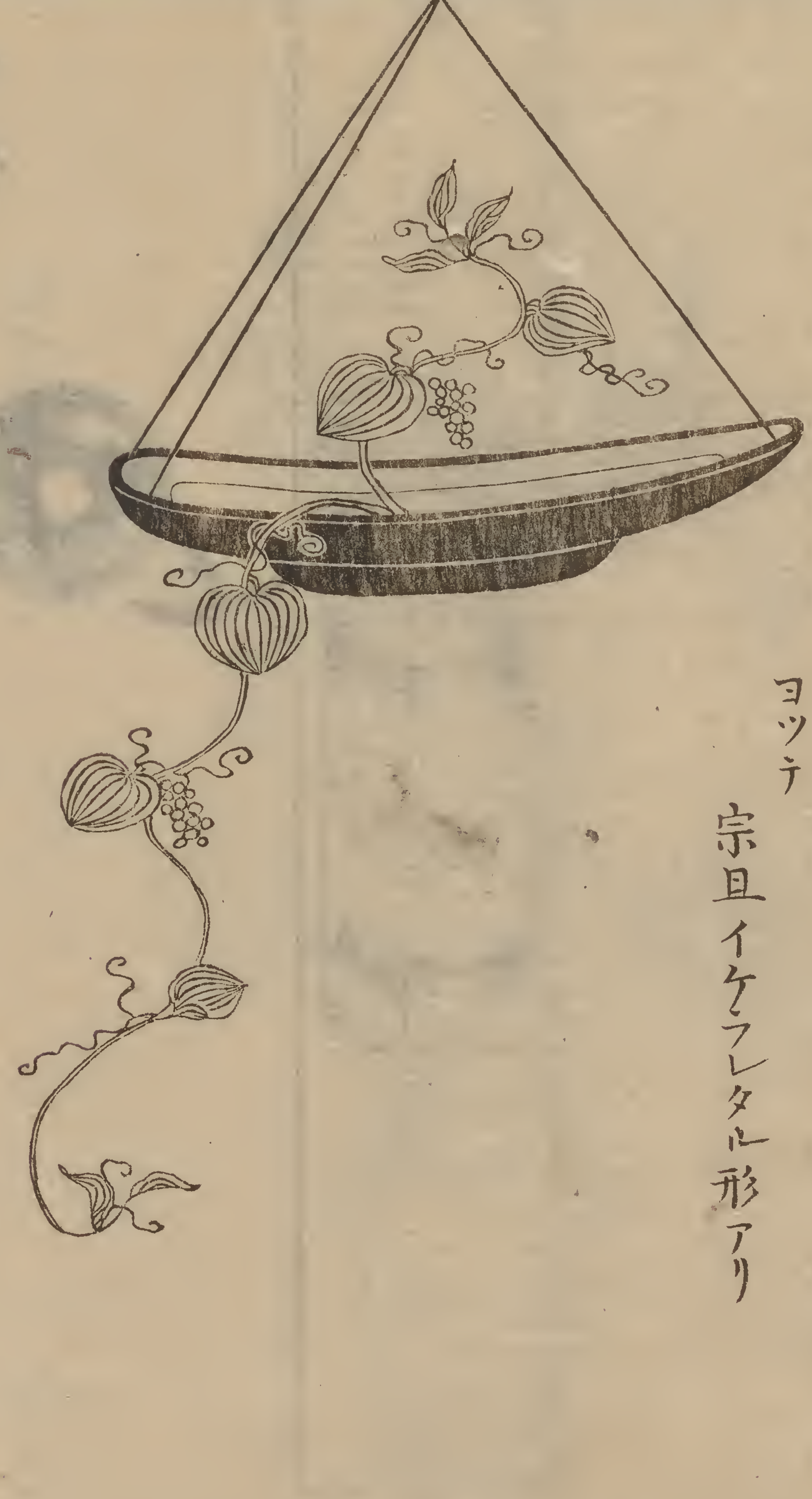


川柳と[illegible]水[illegible]

槖吾花（タクコクハ） ツワノ花

水仙（スイセン）

山帰来草（サンキライソウ） 俗 粮艸（カテクサ）



別種菝葜（ハツカツ）ト云物アリ髣髴タリハツカツハ刺（ハリ）アリ山帰来ニ刺ナシ此實年越テ不落ヨツテ

宗旦イケフレタル形アリ

冬至梅（トウシバイ）ニ葉牡丹（ハボタン）

八手花（ヤツテ）

漢名 金剛纂

通脱木ノ説非也

薔薇（セウヒ）

和名 ロウサバラ

シタレイバラ

實ヲ金罌子（キンアウシ）ト云

四季に咲く

柳（ヤナギ）ニ山茶花（ツバキ）

枯蘆（カレアシ）ニ燕子花（カキツハタ）

寒菊（カンキク）　寒竹（カンチク）

山梅花（サンクハ）

山茶花ノ字ニ誤来ルヿ久シ

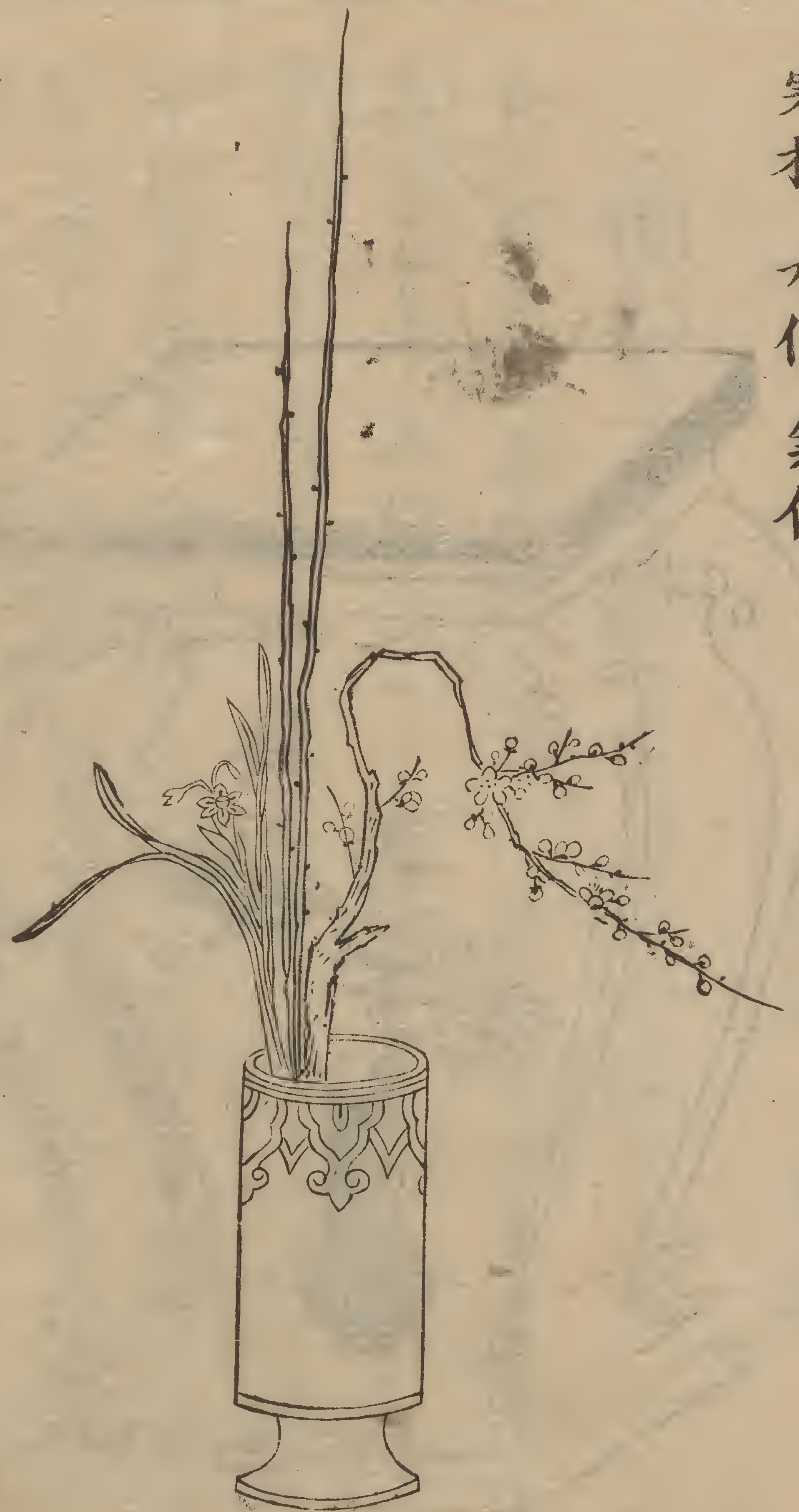
寒菊（カンキク）

水僊（スイセン）

萬年青（マンネンセイ） ヲモト

藜蘆（リロ）ノ文字非也

寒梅（カンバイ）ニ水仙（スイセン） 氣條（ツハア）



冬牡丹

卓下

生花百競附録

入江玉蟾撰

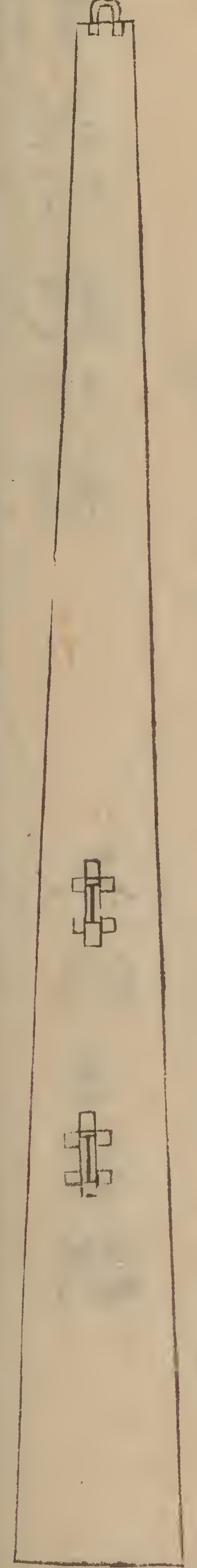
△床先キへ花揷ふ事附たり飾の事

一 古人の云掛物の絵人物鳥獣の面部よりさらして絵師なとも花枝葉ふかく見へかくるを忌しとかくのごとくの教へありちかき床の飾ハ丈高く延ひたる花を好る時ハ土人ハ紫菀花薄も草芦のたぐひいまハたふかく掛りて見ても画おもしろからぬやうなるハ生たる時卓へ花器を並し置へて生へしかくもなくて掛物にさハらぬなり是ハ古法に定まる所と

いかにも釣付花の器あり中に掛物の上座に花を生
下座に料紙硯と置合するは此例となして生るべし
さりながら付の花なれバ悪きとハいふべからず

△壷撥古法の事

一 図のごとき東山殿始て製し給ふ寸法也 壷撥の
古法先是偏にあらずといへども又此図ハ能阿弥の
秘蔵なりしを親しく古物よりて図するものにて以てよく
寸法にもありけるにや何も人々に伝ふべし



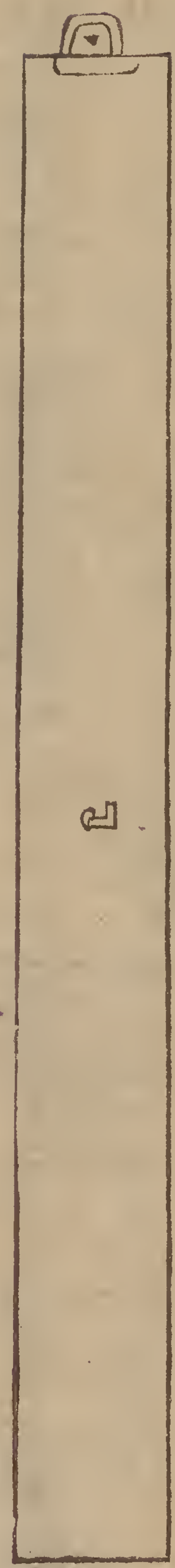
書小 義政公の給る器 堂上方の事

悪くなきは全く好み掛物に張るべし下の二所の
掛物も中に掛釘とて自由に仕入る事也 花入掛る所の
其後定法掛りて右の器なし 八分目の所なる所中に
次をあけ今の法に改めらるべきと見ゆ 上の掛
所の掛物なし両付用ふべし 釣撥ともいふの古
代中ごろ後代の掛物のやうに是にも人もあり 穿鑿も未熟
なりより何にもかきうへし 以下

△掛板の事

一 掛板ともいふの所に図するごとし 古田織部の好み

ここ文體にハしまもみゆる趣に法ありて掛物を
座敷の正面へ花を入て餝るの心なり



一

△花の定格 并 出口のこと

他流に於しを我か傳へ来る所の花を以て容と
投入を茶家に茶と称して竈座しに花を投入
し事なれし茶ともしなれバ花に法則無なり
ことにハ花とかもにたなとらハ法に花を活し
風情おもしろき容の無に生ずるやうに生る也へし

出生然れバ人工を加へ形容を盡し花をたて瓶中に奇麗に
其本源と志見て生かたによりて投入のごとくつくりなす
やうに無造作にいひなし花ありといへど茶家の人を
つくろひすぎるといへど嘲弄を投入る花の様に
揮するとなしとしてもがたらぬ事ハ流儀を立まじ
生しむることゝ小瓶へいけし風情と考へなし
花見る人茶家の投入と生花とハ別なるを辨しまた
へし瓶中の形容無理を無へし添へしたる花
家流の外生花ハ茶家より出たるなりといへ本来ハ
茶の花も丁寧なりしと也其茶家の花を

餘興になりて今のなげ入の挿花と出来し

古人とも為る人もまかしして

○掛花なげ入定格

○同定格の変

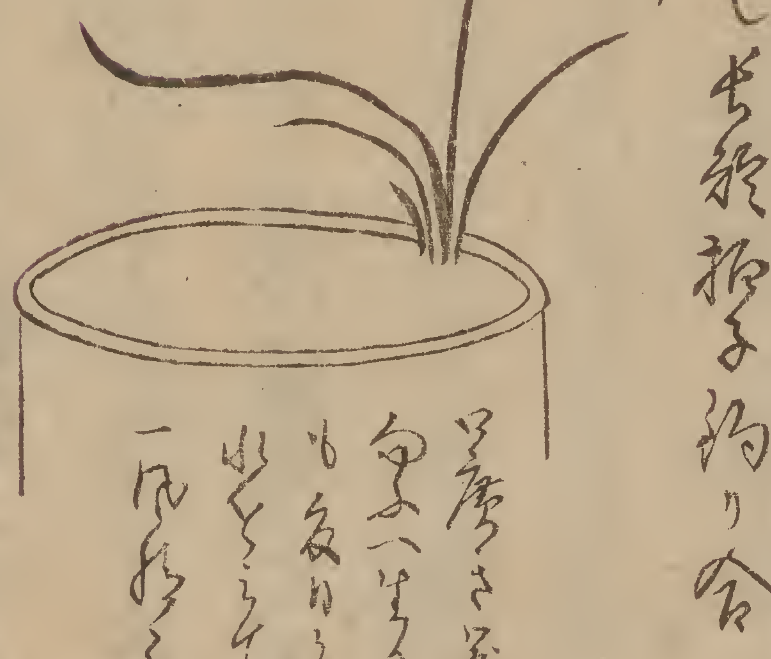
右同断

右何れも床の脇にかけ 客居

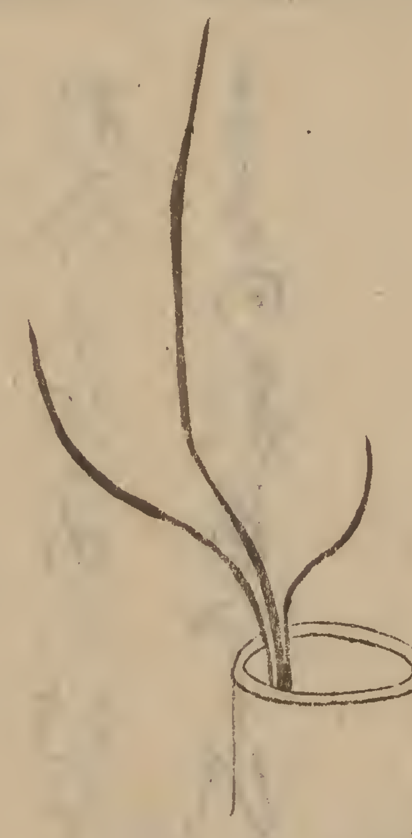
よりの方ゟ見るべし 上座

に在るもの見合せ 掛子に釣り合

を見るべし

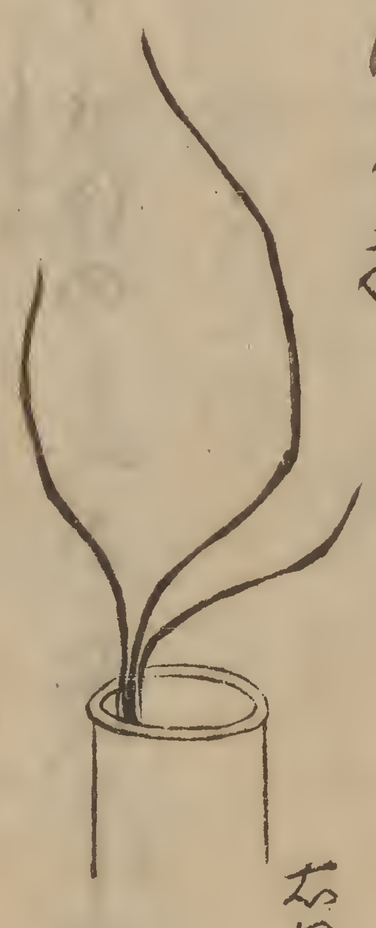


○置花なげ入定格



右同断

○同変格



右同断

何れも見て風体を好むべし

△花出口の事

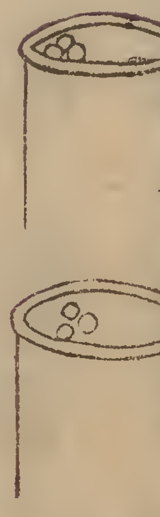
一 花出口水際よりして奇麗に出すべし 一花一輪

二輪より小花茎葉へ出口の姿を見るべし ただし

なげ入は手練のものは自由に出すこと有れども

初心のものは図にあらはすとそ

如此のことく並ひてよろし



如此組あくへきまれにあり

此餘ハ紫苑燕子花一八なとハ葉の廣さ其の外ハ廣くさ
出生の物ハ廣ク入へし廣さよて狭くなとも入へけれ
花よりハ花筒ハ入へし花筒よりハ花ハ入へし花と筒と
前栽合なとハ花も出来ある物も花の取入へし移くして
取入るれ者の行ととくへし別よ花記すめさして
其の取用へけれ業ハ手練のうへにあるへし

明和六歳己丑春二月上梓

書肆

京堀川錦上ル町 西村市郎右衛門
同寺町通松原下ル町 梅村三郎兵衛
大坂心齊橋筋安堂寺町 大野木市兵衛
江戸本町三丁目 西村源六
同下谷寺町通 和泉屋藤七
同日本橋通壹町目 須原屋茂兵衛